

日経
MOOK

特集 | よく分かる小学生の英語事情

小学生の“いま”を徹底サポートする総合教育誌 VOL.19 定価(本体933円+税)

ducare デュケレ

よく分かる

受験でも就職でも必ず勝てる

小学生の英語事情

Part 1

小学生英語の
“いま”と今後の動向を
密着取材

Part 2

英検、TOEFL Junior、
TOEIC Bridge、GTEC…
数ある検定を正しく知って
我が子の志望進路を叶える

Part 3

上達への
最短ルートが分かる
英語学習法 AtoZ

連載

やる気を引き出すトリガーフレーズ
和田秀樹

データから読み取る! 日本の教育
今、企業に注目される「リケジョ」

受験のプロ、開成番長が指南!
繁田式勉強法



最新

塾選びガイド
&

2014年

中学入試速報
発表

日本経済新聞出版社

Section 3

進路に合った検定を選択

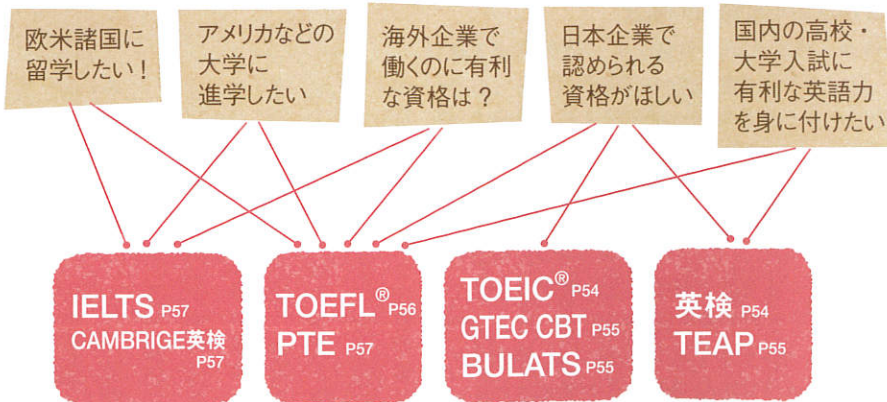
英語検定徹底分析

日本では多種多様の英語の検定が行われている。だが、どの検定も目的ごとに違った技能や力が問われるため試験内容も様々だ。それぞれの検定の特徴を知り、子どもの目標に合った検定を選びたい。

英語検定難易度のめやす

TOEIC _® (レベル)	TOEFL (IBT)	IELTS	英検
A 860-990 3.0%	114-120	8.5-9.0	1級
	109-113	8.0-8.5	
	102-108	7.5	
	100-101	7.0	
B 730-855 8.0%	92-99	6.5	準1級
	84-91	6.0	
	76-83	5.5	
	68-75	5.0	
C 470-725 49.0%	61-67	4.5	2級
	54-60	4.0	
	48-53	3.5	
	42-47	3.0	
D 220-465 37.0%	36-41	2.5	準2級
	32-35	2.0	
	26-31	1.5	
	22-25	1.0	
E 0-215 3.0%	18-21	0.5	3級
	14-17	0.0	
	10-13	0.0	
	6-9	0.0	

日本で最も知られている「実用英語技能検定」(以下英検)は中学・高校生にとって受験に有利な資格として馴染みがある。英検は実用英語の力を日本人に付けさせるための学習目標としてつくられているため、今の日本社会に必要な英語力を測る試験問題として最適だ。だが、この検定資格は日本国内の指針であり、海外で資格として採用されないこともある。同じくTOEIC_®も日本のビジネスに必要な英語力を測るのが目的で作られた検定のため海外企業に就職するとき参考とされないことも。海外の検定で有名なTOEFL_®はアメリカなどの留学のための英語試験だが、イギリスの主要大学ではIELTSの試験結果を求めている場合もあり、国によって必要となる検定は違ってくる。検定の特徴とその有効性を理解して挑戦しよう。



数ある
検定、正しく
知ってる?

わが子にはどんな 英語の検定が必要か

英語をただ学習させていても、子どもにどのくらいの力が付いているのか判断は難しい。そうした指針になるのが検定だ。目標があれば子どもにも学習する意欲が沸いてくる。



海外大学進学への手引き

■SAT Scholastic Assessment Test

SAT Reasoning Test (旧 SAT I)

Critical Reading、Writing、Mathの3教科の試験。一般的にSATと言われるテストのこと。

SAT Subject Tests (旧 SAT II)

英語、歴史、社会学、数学、自然科学、語学の5分野20科目の中から1回の試験で3つまでを受験できる。※どちらも各教科200点から800点の評価で2400点満点となる。

※日本ではSATが一般的なもので事例に挙げたが、米国ではACT (American College Testing) という適正テストで申請することもある。

■GCE-A-LEVEL (General Certificate of Education, Advanced Level)

英国では日本と教育年数の仕組みが違うため、日本の高校からストレートに大学に進学するのは難しい。英国は5歳から16歳までが義務教育だが修了時にGCSE (General Certificate of Secondary Education) のテストを受ける。その成績により進学した学校で専門課程を2年間受け、日本の高校3年生にあたる18歳でA-LEVELのテストを受ける。これが実質大学受験のための試験で、成績により進学できる大学が決まる。

AGOS JAPAN

アゴス・ジャパンは大学・大学院留学を目指す人たちに、20年以上留学指導を実施してきた留学指導専門校。過去10年間で10,000件以上の海外トップ校への合格実績を誇る、留学のエキスパート。

海外大学と日本の大学
選考方法の違いとは

日本でも最近AO入試を導入している大学が多数あるが、これはアメリカの入試課に当たる Admissions Office が出願者を総合的に審査し、合格を出す方法から由来している。試験重視の日本と違い、海外の大学では書類審査を中心に行われる。高校の成績に加え、アメリカではSAT_®やACT_®という全国統一試験、イギリスではA-LEVELと呼ばれる試験結果などが必要とされる。その他エッセイや活動履歴なども重視されるため、まさに「人を見る受験」といえるだろう。

アメリカの大学に進学するには

ここでは日本からの留学が最も多いアメリカの大学への進学について紹介する。

●受験方法

日本の大学と違い、一斉に行われる「入学試験」はなく、書類審査で合格が決定する。日本人学生が出願する場合、TOEFLスコア、高校の成績、英文エッセイ(志望理由)、推薦状などから総合的・多角的に審査される。上位校に出願する場合はさらにSAT_®やACT_®スコアの提出も必要だ。

●出願校の選び方

2年制・4年制大学を合わせて4000校を超える大学があるため、大学検索サイトやランキングサイトを利用するのが一般的かつ効率的だ。

<検索サイト>

College Board "bigfuture"
<https://bigfuture.collegeboard.org/college-search>
Peterson's <http://www.petersons.com>

<大学ランキング>

US News and World Report Best Colleges
<http://colleges.usnews.rankingsandreviews.com/best-colleges>

●出願時に必要なもの(大学によって異なる)

- ・願書
- ・成績証明書/卒業(見込み)証明書
- ・高校の先生からの推薦状
- ・SATやACTなど統一試験結果
- ・エッセイ(志望理由)
- ・財政証明
- ・TOEFLスコア(英語力の証明)

大学への出願方法は、各大学独自の願書用紙ないしはオンラインサイトより出願するのが一般的だ。The Common ApplicationやThe Universal Applicationという共通に利用可能な願書を使用することで複数校同時に出願することが可能。

海外の大学は入学してからが勝負

海外への進学指導のエキスパートのAGOSで指導をする松永みどりさんは、海外進学を視野に入れている学生に知っておいて欲しいと忠告する。「『海外の大学は入学よりも卒業が難しい』とよく言われます。入学後は常に一定以上の成績(GPA)を維持しなければならず、GPAが2学期連続で2.0(C平均)を切ってしまうと退学となります(米国の大学の場合)。日本のように入学偏差値で大学のランク付けをせず、研究成果や卒業後の活躍などによって評価されるため、入学後の学業評価がシビアなものとなっているのです。卒業まで死に物狂いで勉強するくらいの覚悟をもってチャレンジしてほしいと思います。」